

アルドステロン(CLEIA)		7424101		
		担当部署		
アルドステロン		生化		
検査オーダー				
患者同意に関する要求事項		特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		特記事項なし		
検査受付時間		8:15~16:00		
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項		特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング		医師の指示があれば、指示どおり。		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8 mL
2	-	-	-	-
3	-	-	-	-
4	-	-	-	-
5	-	-	-	-
6	-	-	-	-
7	-	-	-	-
8	-	-	-	-
検体搬送条件		室温		
検体受入不可基準		1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間		冷蔵・2週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
検査結果・報告				
検査室の所在地		病院棟3階 中央検査部		
測定時間		当日中~翌日		

生物学的基準範囲		非原発性アルドステロン症患者から採取した検体を測定した結果、参考基準範囲（2.5～97.5パーセントイル値）は3.0～72.7 pg/mL ルミパルス アルドステロン試薬添付文書			
臨床判断値		設定なし			
基準値				単位	pg/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
3	72.7	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		<p>新生児期に最も高値を示し、加齢とともに低下する。60歳以上の男性や閉経後の女性では有意に低値を示す。</p> <p>た、ACTHの分泌調節を受けるために、早朝に高く、深夜に低いという日内変動を示す。</p> <p>一方、レニン・アンジオテンシン系の分泌調節を受けるために立位で高値、高食塩食摂取下では低値を示す。</p> <p>さらに黄体期や妊娠中には卵胞期の2～4倍に増加し、性周期の影響も受ける。</p>			
臨床的意義		<p>アルドステロンは副腎皮質球状層で産生・分泌される最も強力な鉱質コルチコイドであり、電解質の恒常性・循環血液量・血圧の維持に重要な役割を果たしている。</p> <p>アルドステロンの分泌は、レニン-アンジオテンシン系、ACTH、血中カリウム濃度によって調整されている。</p> <p>アルドステロンの測定は、原発性アルドステロン症をはじめとした高血圧疾患、腎疾患、浮腫性疾患などの診断・鑑別に有用である。</p> <p>本試薬は化学発光基質(AMPPD)を用いた化学発光酵素免疫測定法（CLEIA；chemiluminescent enzyme immunoassay）に基づく試薬である。</p> <p>ルミパルス アルドステロン試薬添付文書</p>			